

ました。多くの犬がぞっとするような悪状況に置かれ、もっともおぞましい死に方をしたことは明白でした。近所の人たちによると、恐ろしい状態が長期間続いたそうです。毎日、犬同志がけんかをして、殺し合う声があたり一帯にひびき渡りました。徐々に餓えが進行する極限状態に追い込まれた彼らは、生き残るために互いに食べ合うしかなかったのです。もちろん、住民は、地元の役所（保健所）に苦情を訴えましたが、行政は一体何をしてくれたのでしょうか。何もなかったに等しいのです。信じられないことですが、男の名前と住所がわかっていたのに、飼育場所をつきとめるのに、何と3日もかかったそうです。ようやくやって来た保健所の職員に向かって、ブリーダーは、「改善策を考えます」と言いました。職員が再びそこを訪れたときには、犬がいなくなっていたので、どこか別の場所に移されたのだろうと判断したということです。身の毛がよだつような動物の



黒ラブの遺体が撤去されたオリに残された血痕と、オリの床に残されたフンの山
remains of a black Labrador

死体に気づけなかったとは、何とも不思議なことです。

サラは、生き残った犬を救出しましたが、数個所の動物病院に運ばれた彼らは未だに危篤状態が続いているそうです。このようなブリーダーは、法によって裁かれるべきだ—サラはそう考えて、県庁の動物保護担当課を訪ねました。「うちとしては、何もできません。保健所に相談してください」というのが、対応に出た

職員の返事でした。現在、サラは、業者を告発しようとしています。アークは、これを支援したいと考えます。オリバー始め、アーク関係者も告発人名簿に名前を連ねました。今にはじまったことではありませんが、この事例から、動物への虐待に関して、冷淡で、不適切な対応をとる日本の役所の姿勢が、あらためて確認できます。残虐行為を目にしても、気づかぬふりをするのが、いつものやり方なのです。

サラを支援したいと思われる方は、下記宛にお願いします。

SALAの連絡先：

183-0014

東京都府中市是政4-8-12

TEL.0423-62-3400

FAX.0423-62-3412

this breeder to justice visited the animal protection section at the Prefectural Office, they said it was nothing to do with them and the hokensho should handle the situation. Now SALA is bringing about private prosecution and ARK will support this.

What this case confirms once again is that in Japan the authorities are inept and indifferent to animal cruelty even when it stares them in the eye. People wishing to support SALA should contact: Ms.Tanino

4-8-12, Koremasa, Fuchu-shi, Tokyo,
183-0014

TEL.0423-62-3400

FAX.0423-62-3412



大型犬と小型犬が一緒に入っていたとー白いのは骨の欠片 piles of feces, fur and bones